

2026年度 愛知学泉大学シラバス

| シラバス番号 | 科目名 | 担当者名 | 実務経験のある教員による授業科目 | 基礎・専門別 | 単位数 | 選択・必修別 | 開講年次・時期 |
|-----------|----------|--------|------------------|--------|-----|--------|---------|
| 330341108 | 短期海外保育留学 | 伊藤 久美子 | ✓ | | 2 | 選択 | 2後期 |

科目の概要

ニュージーランドでの2週間の滞在を通じ、異文化理解と国際的な保育実践力を養う。多様な背景を持つ人々へ慈しみと共感を持って接する態度を磨き（DP1）、実習やホームステイ等の未知の環境で、社会人基礎力や直観力を統合し、自立して生きる力を習得する（DP5）。現地の教育理念を通じ自己の保育観を客観的に捉え直し、生涯にわたり潜在能力を開発しながら、将来、国際社会の課題解決に貢献できる専門職としての素養を形成する（DP7）。

| 学修内容 | 到達目標 |
|---|--|
| ① ホームステイや語学学校を通じ、現地の生活習慣や英語表現を体験的に学ぶ。非言語的手段も駆使して多様な背景を持つ人々と真摯に向き合い、信頼を築く対人能力を習得する。 ② 日本人保育士の研修で教育理念を深めながら子どもの主体性を尊重する関わりを学び、未知の環境で直観力を働かせ、自律的に判断・行動する柔軟な実践力を現場で養う。 ③ 保育施設での実習および学校での日本文化を伝える企画の実施を通じ、グローバルな視点で課題に自然体で対応し、創造的に発信するスキルを磨く。 ④ 歴史・文化体験と事後の振り返りを通じ、自己の保育観を客観的に捉え直す。多角的な視点から社会課題を考察し、生涯学び続け、将来国際社会に貢献する自己開発の基盤を築く。 | ① ホームステイや語学学校での生活を通じ、英語を用いた意思疎通の基礎を習得する。異文化への理解を深め、言語の壁を越えて他者と信頼関係を築くための態度を身につける。 ② 現地研修を通じ、教育カリキュラム「テ・ファリキ」の理念を学ぶ。子どもの主体性と多様性を尊重する現地の保育の在り方を理解し、日本の保育制度との違いを考察できる。 ③ 保育施設での実習や小学校でのワークショップを通じ、現地の児童に対し適切な援助ができる。自国の文化を伝える活動を企画・実践し、教育者としての柔軟な対応力を養う。 ④ 多文化共生社会やマオリ文化への理解に基づき、日本の保育を客観的に捉え直す。多様な背景を持つ子どもや家庭への関わり方を学び、自身の保育観をグローバルな視点で広げる。 |

| 学生に発揮させる社会人基礎力の能力要素 | | 学生に求める社会人基礎力の能力要素の具体的行動事例 |
|---------------------|-------------|--|
| 前に踏み出す力 | 主体性 | 未知の環境で自ら目標を定め、異文化交流や実習に積極的に参加する。生涯にわたり自己を開発し、国際社会に貢献しようとする主体的な姿勢を養う |
| | 働きかけ力 | |
| | 実行力 | 言語の壁がある環境でも、現地の保育理念に基づいた関わりやワークショップを計画通りに遂行し、自立して最後までやり遂げる力を身につける |
| 考え抜く力 | 課題発見力 | ニュージーランドの保育指針と日本の現状を比較し、多文化共生社会における現場の課題や自身の保育観の改善点を、客観的な視点から多角的に見つけ出す |
| | 計画力 | 海外での限られた実習時間を有効に活用し、日本文化紹介の企画立案から実施まで、目標達成に必要な準備を論理的に組み立てる力を発揮する |
| | 創造力 | 言語の制約を超えて、現地の教育環境に即した遊びや活動を提案する。既存の枠組みに捉われず、多様性を尊重する保育の在り方を柔軟に創出する |
| チームで働く力 | 発信力 | 異文化体験で得た気づきや自国文化の価値を、英語や非言語的手段を用いて他者に分かりやすく伝え、周囲に働きかけて相互理解を深める力を養う |
| | 傾聴力 | 四大精神に基づき、異なる文化背景を持つ他者の考えを尊重する。相手の意図や感情を慈しみと共感を持って受け止め、深い信頼関係を構築する |
| | 柔軟性 | |
| | 情況把握力 | |
| | 規律性 | 保育者としての自覚を持ち、現地の生活習慣や実習先の約束事を遵守する。誠実な態度で自己を律し、社会の一員として責任ある行動を実践する |
| | ストレスコントロール力 | |

テキスト及び参考文献

| |
|--|
| |
|--|

他科目との関連、資格との関連

「短期海外保育留学」は、学科専門科目の「学外実習領域」として位置付けられている。「多文化共生保育・教育論」「キッズイングリッシュⅠ」「キッズイングリッシュⅡ」と関連する科目である。

| 学修上の助言 | 受講生とのルール |
|---|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ・現地の教育理念や生活習慣を事前に学習し、実習に備えること。 ・ホームステイ先や語学学校では自律的に行動し、積極的にコミュニケーションをとること。 ・実習での気づきを記録して自己の保育観を客観的に捉え、専門職としての基盤を築く努力をすること。 | <ul style="list-style-type: none"> ・保育者としての自覚を持ち、誠実な態度と礼儀、期限厳守を徹底すること。 ・現地の文化を尊重し、慈しみと共感を持って接すること。 ・留学生としての立場を理解し、国際社会の一員として責任ある行動をとること |

【評価方法】

| 評価対象 | 評価方法 | 評価の割合 | 到達目標 | 各評価方法、評価にあたって重視する観点、評価についてのコメント | |
|--------|-----------------------|-------|------|---------------------------------|--|
| 学修成果 | 学期末試験 | 0 | ① | | |
| | | | ② | | |
| | | | ③ | | |
| | | | ④ | | |
| | 小テスト | 0 | ① | | |
| | | | ② | | |
| | | | ③ | | |
| | | | ④ | | |
| | レポート | 0 | ① | | |
| | | | ② | | |
| | | | ③ | | |
| | | | ④ | | |
| 平常評価 | 成果発表（プレゼンテーション・作品制作等） | 90 | ① | ✓ | |
| | | | ② | ✓ | |
| | | | ③ | ✓ | |
| | | | ④ | ✓ | |
| 学修行動 | 社会人基礎力（学修態度） | 10 | ① | ✓ | |
| | | | ② | ✓ | |
| | | | ③ | ✓ | |
| | | | ④ | ✓ | |
| 総合評価割合 | | 100 | | | |

①実習記録（30点）
②短期海外保育留学の報告書（60点）
知識の獲得（海外留学の目的の理解・保育方法の理解）：30%
知識の活用（ニュージーランドの保育実践の意義を理解した事例の活用の試み）：40%
知識の解決（多文化共生保育に関する問題提起の事例と具体的な提案）：30%

（主体性）未知の環境で自ら目標を定め、異文化交流や実習に積極的に参加する。生涯にわたり自己を開発し、国際社会に貢献しようとする主体的な姿勢を養うことができる。
（実行力）言語の壁がある環境でも、現地の保育理念に基づいた関わりやワークショップを計画通りに遂行し、自立して最後までやり遂げることができる。
（課題発見力）ニュージーランドの保育指針と日本の現状を比較し、多文化共生社会における現場の課題や自身の保育観の改善点を、客観的な視点から多角的に見つけることができる。
（計画力）海外での限られた実習時間を有効に活用し、日本文化紹介の企画立案から実施まで、目標達成に必要な準備を論理的に組み立てることができる。
（創造力）言語の制約を超えて、現地の教育環境に即した遊びや活動を提案し、既存の枠組みに捉われずに多様性を尊重する保育の在り方を柔軟に創出できる。
（発信力）異文化体験で得た気づきや自国文化の価値を、英語や非言語的手段を用いて他者に分かりやすく伝え、周囲に働きかけて相互理解を深めることができる。
（傾聴力）四大精神に基づき、異なる文化背景を持つ他者の考えを尊重し、相手の意図や感情を慈しみと共感を持って受け止めて深い信頼関係を構築することができる。
（規律性）保育者としての自覚を持ち、現地の生活習慣や実習先の約束事を遵守する。誠実な態度で自己を律し、社会の一員として責任ある行動を実践することができる。

【到達目標の基準】

| 到達レベルS(秀)及びA(優)の基準 | 到達レベルB(良)及びC(可)の基準 |
|---|--|
| <p>S (秀)</p> <p>①英語や非言語手段を高度に駆使し、異文化の相手と深い相互理解と信頼関係を主体的に築ける。</p> <p>②現地の教育理念を深く洞察し、日本の保育制度との相違を多角的な視点から極めて論理的に分析できる。</p> <p>③創造的で完成度の高い日本文化紹介を企画・実践し、現地の状況に即した極めて柔軟な対応ができる。</p> <p>④多文化共生への深い理解に基づき自己を客観視し、グローバルな視点から独自の保育観を高度に構築できる。</p> <p>A (優)</p> <p>①英語を用いた意思疎通が適切にでき、文化の違いを越えて他者と良好な信頼関係を築ける。</p> <p>②「テ・ファリキ」の理念を正しく理解し、日本の保育制度との違いを明確に考察できる。</p> <p>③現地の児童に対し適切な援助ができ、教育者として柔軟な対応を伴う活動の企画・実践ができる。</p> <p>④多文化共生社会やマオリ文化を理解し、自身の保育観をグローバルな視点で客観的に広げられる。</p> | <p>B (良)</p> <p>①現地生活に必要な英語の基礎を習得し、異文化を尊重しながら他者と交流できる。</p> <p>②現地の教育理念の概要を理解し、日本との基本的な違いについて自身の意見を述べられる。</p> <p>③実習に真面目に取り組み、計画に沿って自国の文化を伝える活動を概ね遂行できる。</p> <p>④多文化共生への関心を持ち、これまでの自身の保育観について標準的な省察ができる。</p> <p>C (可)</p> <p>①意思疎通に課題はあるが、異文化を理解しようと努め最低限の信頼関係を築く態度が見られる。</p> <p>②教育理念の基本的な用語を理解し、日本との違いについて示された事例に沿って説明できる。</p> <p>③実習先の約束事を守り、指導を受けながら基本的な児童への援助や活動の補助ができる。</p> <p>④多文化社会の基礎知識を得て、自身の保育観を捉え直すための最低限の記述ができる。</p> |

| 週 | 学修内容 | 授業の実施方法 | 到達レベルC(可)の基準 | 予習・復習 | 時間(分) | 能力名 |
|---|--|---|---|---|-------|--|
| 1 | <ul style="list-style-type: none"> ・ニュージーランドへ渡航しホームステイを開始する。 ・語学学校や教育セミナーを通じ、現地の生活習慣や教育の基本理念を学ぶ。 ・多様な背景を持つ人々と接し、信頼関係を築くための対人能力の基礎を実践的に養う。 | 演習 (語学学校) google classroomにて振り返りの提出 フィードバック | 異文化を理解しようと努め最低限の信頼関係を築く態度が見られる。 | 事前学習の英語表現を復習し、毎日の気づきを記録する。ホストファミリーと積極的に対話を行う。 | 180 | 主体性 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 規律性 |
| 2 | <ul style="list-style-type: none"> ・保育施設での実習や小学校視察を通じ、教育理念の実践を深く学ぶ。 ・自国文化を伝える活動を企画・実施し、現地の子どもたちとの交流を通じて、状況に応じた柔軟な実践力やグローバルな視点での発信力を総合的に磨く。 | 実習 google classroomにて振り返りの提出 フィードバック | 実習先の約束事を守り、指導を受けながら基本的な児童への援助や活動の補助ができる。 | 実習の振り返りを行い、日本との保育の違いを考察する。最終報告書作成に向けた資料整理を行う。 | 180 | 主体性 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 規律性 |
| 3 | <ul style="list-style-type: none"> ・留学での体験を基に自己の保育観を客観的に捉え直す。 ・多文化共生社会の課題や現地の教育理念から得た学びを整理し、将来の専門職としての指針や具体的な提案を盛り込んだ最終報告書を作成し、期限までに提出する。 | 演習 (報告書の提出) notebookLMを使った報告書の作成 | 教育理念の基本的な用語を理解し、日本との違いについて示された事例に沿って説明できる。 多文化社会の基礎知識を得て、自身の保育観を捉え直すための最低限の記述ができる。 | 報告書の作成 | 180 | 主体性 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 規律性 |

能力名：主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性 ストレスコントロール力